

【 5 】 子どもの行動傾向

(5 - 1) 歩行中の子どもの行動傾向 (A ~ C ' 群 : 大人全体への質問)

質問 道を歩くとき、子どもたちの行動の傾向として次のようなことを感じることはありますか(いくつでも)。*丸をつけた傾向が何歳児を対象としているのかわかる場合は年齢を()に記入を。
 1:車をよく見ていない() 2:信号をよく見ない() 3:交通ルールをすぐ忘れる()
 4:興奮しやすい() 5:いきなり走ったり飛び出したりする() 6:ふざける()
 7:途中でしゃがみこむ() 8:その他お感じのこと歩く空間ではどのような問題を感じますか。

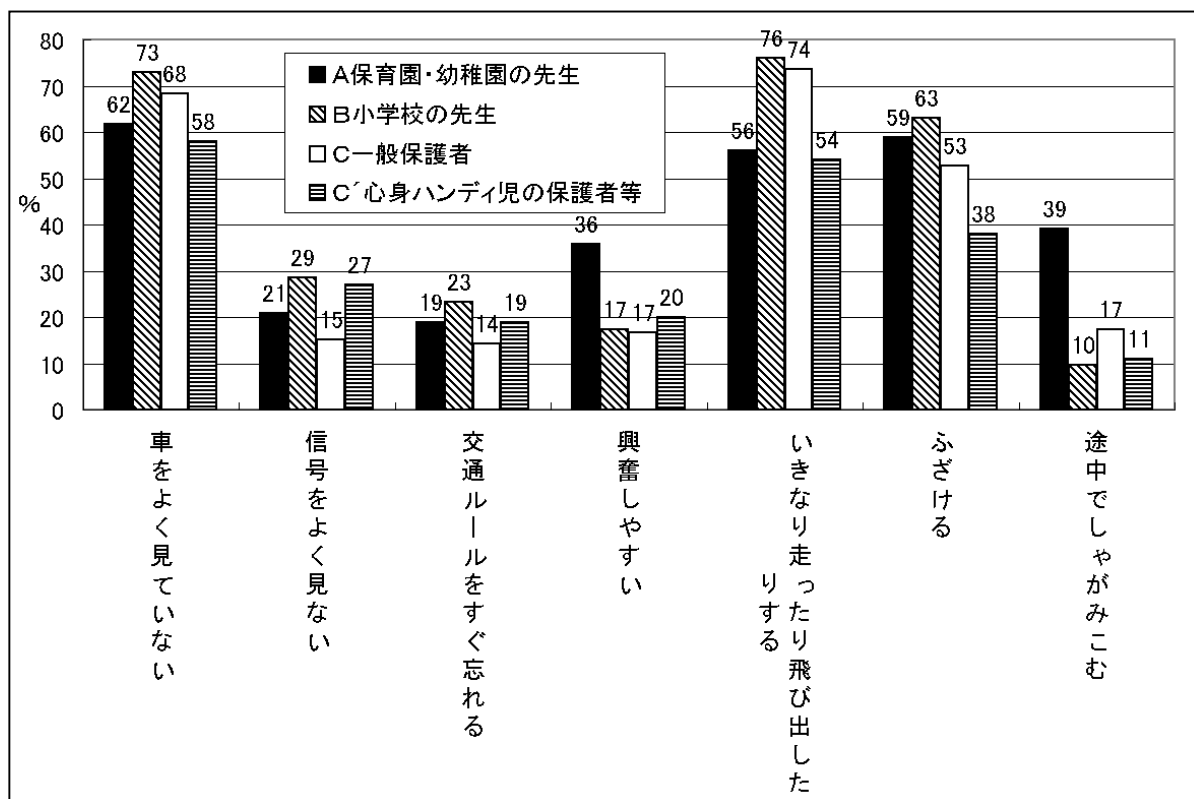
... 「クルマをよく見ない、走る、飛び出す」子は多数いる ...

次に、歩行中の子どもの行動傾向として感じることを尋ねた。回答で多かったのは「クルマをよく見ていない」(平均65%)「いきなり走ったり飛び出したりする」(同65%)「ふざける」(同53%)で、どの項目も小学校の先生の指摘率が最も高かった。また、小学校の先生と心身ハンディ児の保護者等では、「信号をよく見ない」も他の群よりやや高い傾向を示してい

る。「交通ルールを忘れる」は平均19%で予想外に少なかった。交通ルールは頭に入っているにもかかわらず、瞬間的に不測の行動をとってしまうのは、子どもゆえの特性だろう。

保育園・幼稚園の先生の場合は、「興奮しやすい」「途中でしゃがみこむ」が他の群より非常に多い。

(図 5 - 1) 歩行中の子どもの行動傾向 (A ~ C ' 群の回答)
 各群で選択した人の割合。回答は複数選択式。



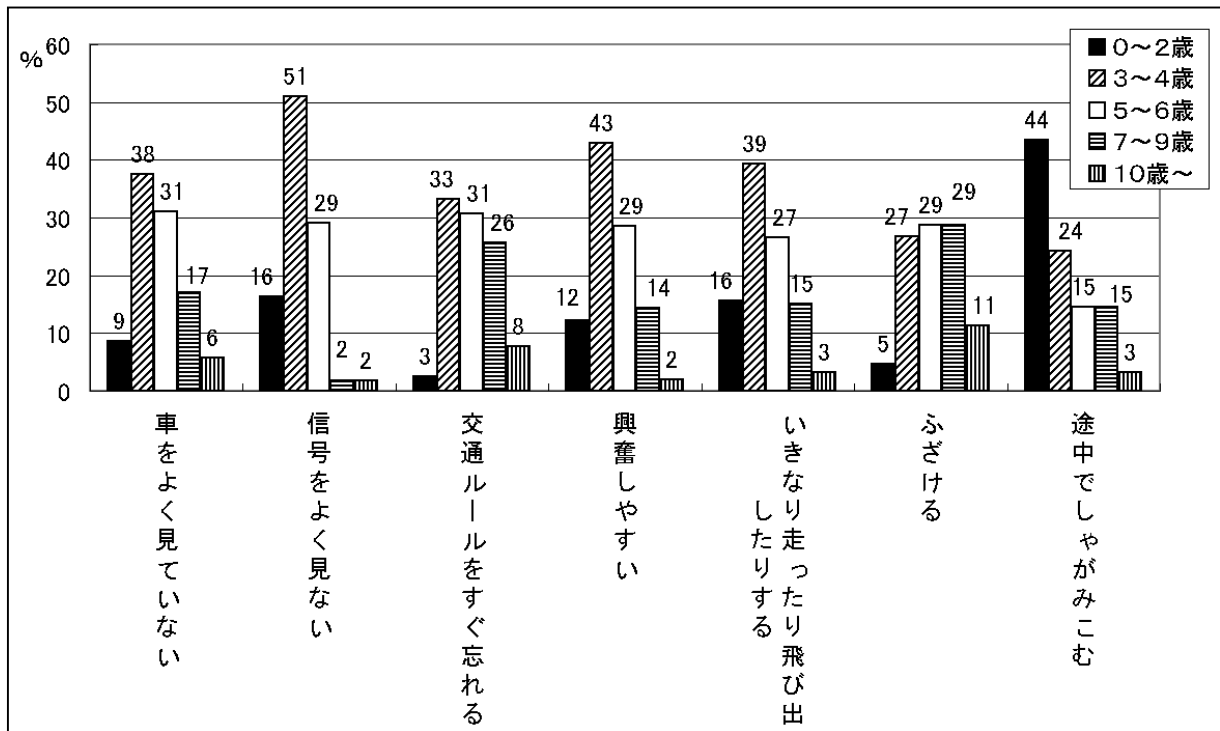
... 年齢により現れやすい行動傾向もある ...

前ページの質問では、行動傾向の該当年齢の記入も求めたので、その結果を、子どもの対象年齢が最も広範囲で記入数も多い一般保護者の回答で調べた。すると、クルマや信号をよく見ない点や、いきなり走る、飛び出す、興奮するなどの行動は3～4歳児、次いで5～6歳児が多かった。また、「ふざける」は年齢層が高く、「途中でしゃがみこむ」は0～2歳児が目立って

多かった。このように、年齢によって現れやすい行動もあるようだ。

しかし、前ページの回答に見るように、小学生もクルマをよく見ていなかったり、いきなり走ったり飛び出したりする例は多いので、子どもは全般に行動が不安定であるということには違いない。

(図 5 - 1 - 補 1) 歩行中の行動傾向の該当年齢 (C 群 : 一般保護者の回答より)



... 無意識に道の中央に寄っていく行動なども ...

その他の行動傾向として、延べ143の事例が寄せられた(次ページ)。常に子どものそばにいる大人なればこそ把握できる、具体的な行動が多く記されている。

多いのは無意識に陥りやすい行動で、なにかに気を取られると周囲が見えなくなったり、周囲につられて注意力が散漫になったりする傾向が示されている。無意識に道路の真ん中に寄っていったり、道に落ちているものを拾おうとしたりなど、不測の行動も見える。

また、信号や交差点の仕組みを十分に理解しきれな

い、一部の約束事は覚えても全体は見えず状況判断ができないなど、理解力や判断力の限界を示す事例や、クルマの危険に対する認識力の限界を示す例も多い。

そうした子どもに付き添う親や先生方の苦労談には、子ども特有の行動を大人が制御しきれない様子も記されている。「クルマのせいで注意することばかりで散歩がイヤになるが、命がけでがんばっている」といった保育士の意見は、おそらく集団保育に関わる指導者や保護者が少なからず感じる思いではないだろうか。

1つのことに気を奪われやすいことを示す行動(44)
 おしゃべりに夢中になると周囲が見えない(12)
 複数で歩くとき道幅に広がって歩く(9)*他のことに
 気を取られるとほかが見えない(6)*道に落ちて
 いるものを拾おうとする(4)*興味があるものを見
 るとすぐ立ち止まる(3)*信号や車を見ずに前の人
 について走ってしまう(2)*列で歩くと前の人
 の行動につられる*人と話そうとして後ろ向きに
 歩く*信号が青になるとすぐ飛び出し、右折車に
 注意がいかない*車道を気にして溝に落ちた*左
 右確認をせずに公園まで走っていく*小さい子
 は車を絵本を見る感覚で見ようとして立ち止ま
 ることがある*自転車で親の自転車の後を追っ
 ていると左右や四つ角に気づかない*キャッチ
 ボールをしていて思わず飛び出す*靴が脱げ
 るとお尻をどっかり地面につけてはく、など

無意識に陥ってしまう行動(27)

*道の端を歩いていても無意識に真ん中に寄っ
 ていく(6)*まっすぐ歩かずふらふら蛇行する(4)*
 好奇心が強く、歩いたり止まったり蛇行したり、
 わざと溝や縁石の上を歩いたりする(4)*並んで
 歩きたがる(3)*質問の選択項目は2～3歳児に
 すべてあてはまる。予期しない行動をする年
 齢(2)*のんびり歩くので列がばらばら(2)*
 信号を渡る途中で突然戻ってきたり、ころん
 だりも多い*疲れると下を向いて歩くので周
 囲の状況が把握できない*興奮すると車を確
 認せずに走り出すなどとんでもない行動に出
 る*とにかく子どもは自分中心*車やバイクの
 加速音にビクッとすくむ、など

危険への認識力の未成熟を示す行動(20)

*車がきてもよけない。車がよけると思っ
 ている(6)*歩道に恵まれている地域の子
 もは車に対する危険意識が薄く、歩道のない
 道で注意力に欠ける(3)*歩く経験が少
 ない子ほど危険意識が少ない(2)*車を意
 識していないし恐ろしさがわからない(2)*
 車は怖いものだと思っ
 ても気にしていない*車の後ろを通ったり
 そこで立ち止まったりする*3歳児などは
 まだ車に対して身の危険は全く感じてい
 ない*5歳頃まで車は楽しいものという
 認識しかなく危険とは思わなかったよう
 だ*車道ぎりぎりの所で信号を待つ。歩
 道だから安心と思っ
 ている、など

理解力や判断力の未成熟を示す行動(19)

*信号が青になっても渡るタイミングが
 つかめず動けない(2)*自分がどの向きの
 信号を見るべきかわからない(2)*周り
 や後ろへの注意ができない(2)*「危
 ないよ」というと母親の方に走り寄っ
 てきて逆に危ない*交差点そのものを
 理解できない*信号は見ているが車
 は見ていない*車がせまってくる音に
 対して認知の仕方が大人より未熟*周
 り全体の状況をつかめない*教えら
 れた決まりは守るが危険との関係は理
 解できていない*子どもは目標物しか
 見ていない*危ない!といってもすぐ
 に反応できない*横断中に車が迫っ
 てくるとどうしていいかわからず立
 ち止まって動けない*道路を渡る余
 裕があるのにずっと向こうに車が見
 えると渡らない*車のスピード感の
 判断がつかない。*幼児は交通ル
 ールをまだ理解していない*判断
 してから行動に移るまでに時間かか
 る*大人でも100%の注意しながら
 歩くことなどできないのに子どもに
 守らせるなど到底不可能

遊びと歩行が混同した行動など(8)

*本・漫画を見ながら歩く(2)*2人
 以上になると走り出しふざける(2)*
 登下校時傘や帽子を振り回したり飛
 ばしたり、石や草を車に投げたりす
 る*道草が多い*友だち同士でつ
 つき合いながら歩く*札幌近郊の
 場合、歩道の除雪が遅れるとその雪
 山に登って遊ぶ子がいる

保育上の苦勞や工夫(13)

*3歳児は「1人でやりたい」を頑固に
 主張することがあり、危険な道でも
 手をつないでくれないことがある*
 子どもは先へ先へと行ってしまっ
 たため、危険を感じてもすぐに追
 いつけない*散歩の目的は外の世
 界にある沢山の刺激を五官・五感
 で味わうことなのに、車のせいで
 のんびりもできず注意することば
 かり。時々散歩がイヤになると
 みんな(保育士)でため息をつく。
 それでも散歩は重要で、経験を積
 み重ねるうちに交通ルールや社会
 モラル、マナーも身につくと思
 い、特に4～9月ころまではオー
 バーに言えば「命がけ」で出か
 けている。そうしないといつまで
 たっても散歩に出られない*心身
 障害の子と道路を歩くのはとて
 も神経を使う。1人で子ども2人
 は連れて歩けず、1対1である*
 障害児は1人で歩かせるには勇
 気がいる。道が狭く、単車の速
 度が速くてビックリする*信号
 を渡るとき列が長いので1回で
 渡りきれず先頭とかなり差が

できる*2人で手をつないで歩かせるが常に声をかけないと前との間が空いてしまう*私の園では異年齢で手をつないで歩くとき、年長の子が車の側を歩き、子ども同士教えあっている*子どもは戸外へ出ると開放的になるので車などの危険に対してはその都度大人の援助が必要*子どもの命を守るために、守るべき事柄を明確に伝えているので問題点はあまり見られない。
*保育者に危険などを教えてもらうのが習慣化している。大人が指示しすぎないように、年齢の大きい子は自分の目で確かめるようにさせている*小学生は住宅街

の道路ですぐ広がって歩くので怖くて引率できない*4月当初、新任の園長(小生)が門前に立っていると物珍しいのかいつまでも振り返り振り返りして前方を見ずに帰るので、門の所からすぐ戻ることにした

上記以外の意見(12)

*行動の傾向は年齢よりも個人差がある(4)小学校高学年~中・高校生は自転車や歩行のマナーが悪い(4)*車社会なので歩く経験が足りず、交通ルールが身につけていない、など

【5】の回答に関連して(会の所感)

子どもの行動特性を理解した対策を

回答を総合してみると、子どもにはさまざまな、思いもよらない行動傾向があることがわかります。子どもは注意力や集中力、自制力などがまだ十分に備わっていないうえ、多くのことに関心が向くため、遊びと歩行の区別がなくなってしまうことが多いようです。

保育書にも「小児期の子どもは、好奇心は旺盛だが、全体として未分化で、知覚も部分的であり、注意力は散漫。気にいったことには集中し、他のことは心に留まらない。大人に依存することもあり、情緒に支配されやすく、自己中心的で具体的な思考しかできない」等の分析が記されており*、今回の回答に示されている行動はその指摘通りのものです。

こうした道路上での行動傾向は、よく「子どもの不注意行動」と見なされ、事故防止のためにはよりいっそうの交通安全教育が必要だといわれます。それももちろん必要ではありますが、しかしもっと大事なのは、「**子どもの行動特性は成長過程の必然であり、どんなに注意を言い聞かせても限界がある**」という**事実の認識**ではないでしょうか。

子どもに注意喚起をくり返し、行動を制約すればするほど子どもの心身にはストレスがかかります。また、子どもの注意力を過剰に期待すれば、万が一事故が起きた場合に子どもに不当な過失責任を押しつけることにもなりかねず、現実にもその例は多いと聞きます。そもそも、未熟で無防備な子どもの注意力と、一瞬にして凶器となり得るクルマを操る大人の注意力とを、同等のはかりにかけること自体が理不尽なことでしょう。

心身の未発達な子どもの生活環境から危険を遠ざけることは、大人の当然の役割です。各地の交通環境は、p16以降に見るように危険に満ちており、子どもたちやその保護者・引率者は、すでにかなり神経を使って暮らしています。この**危険に満ちた交通社会を、「子どもの特性に配慮した安全でゆとりのあるものに変えていく対策」**こそが、重要ではないかと思われま

*参考:『保育・看護・福祉プリマーズ 小児保健』編者高野陽 ミネルヴァ書房 2000年12月発行)